

## 第5回活力あふれる中核都市分科会 議事要旨(案)

### 1 開催日時

平成26年6月27日(金) 15時00分～17時00分

### 2 会場

久留米市役所3階302会議室

### 3 出席委員(50音順)

委員7名

秋永峰子委員、石橋力委員、空閑重信委員、高山美佳委員、原口和人委員、山下永子委員、山下浩子委員、

### 4 欠席者

委員3名

緒方義範委員、永田見生委員、米倉秀之委員

### 5 議事次第

1 開会

2 議事

(1) 久留米市新総合計画第3次基本計画(案)審議

3 その他

4 閉会

## 1. 開会

---

■事務局より、委員 10 名中 2 名の欠席を報告。

## 2. 久留米市新総合計画第 3 次基本計画(案)審議について

---

### (1) 分科会確認結果報告(案)について

○空閑分科会長

前回の分科会で確認いただいた結果を報告書にまとめており、本日はこの案文について確認していく。

今後の進め方については、前回の総合計画審議会参考資料 2 のように、本日取りまとめた報告書は、次回 7 月上旬の審議会(全体会議)で報告し、その後、7 月中旬の審議会で、報告内容を踏まえて事務局で検討した基本計画案の修正案が提案されることになっているので、よろしく願います。

※分科会長から「活力あふれる中核都市分科会審議結果報告(案)」読み上げ

この文案について、意見があれば願います。

この計画の中で、具体的にどういったものに重点的に取り組むというのは検討されているのか。

■事務局

次回の審議会では、具体的な事業を含めた計画案をお示しすることとしている。

○空閑分科会長

これがこうなったらこう変わると、生活に直結するような、イメージできるものにした方がいいと思う。私は、30 万 5000 人を維持してほしいと思っている。しかし、日本全体では減少している中で、久留米市ではどういうことで人口を増やすのか。自然動態なのか、社会動態なのか。そこを定めると、それぞれについての施策が必要になる。どうやって組み立てていくか、いくつかのファクターを合わせて、それぞれの担当部署で、数値目標に向かって 5 年間頑張る。そういう目標がないと現実味がないと思う。

○山下永子委員

生産年齢人口の増加、維持という視点がみえない。社会を支える納税者の数が維持されていないといけないと思う。生産年齢人口をどう維持していくのかが書かれていない。

○空閑分科会長

生産年齢人口は大事だと思う。働く人をどのくらい増やせるか。雇用の場を増やす、工場を誘致するなど、もっと前面に押し出した方がいいのではないかと。どうやって増やすか、共通した理念がないと市の5年後の姿がイメージできないのではないかと。

○山下永子委員

そういった意味では、結果報告書案の「その他」の新卒者の部分は、定住人口増加の観点なのか、生産年齢人口増加なのか。そういったニュアンスがあればいいと思う。

○空閑分科会長

優秀な人材を育成しても、就職は市外に出て行く。就職の受け皿づくりとして、外国人や新卒者に職場をどのように提供していくのか。戦略的なものがないと人口を維持、増やすというのは現実的に無理な気がする。

農業にタッチする人は増えている。年齢を重ね、自然環境もいい久留米で農業しようというUターン組と、他業種からの参入などの農業法人。潜在的なものがこの地域にあると思う。水も豊富だし、イメージとしてもっと農業のことについて打ち出すと久留米で農業をしたいという人が増えるかも知れない。これは成長産業になると思う。

○高山美佳委員

久留米は売れる農産物は沢山あっても売る部分が弱い、経営センスのある若い人達が台頭してきていると思う。久留米は中山間地域とかに比べて交通がすごく便利で、実は空港にも近い。しかし、便利さというイメージでは鳥栖に負けている。鳥栖のUターンが多いのは、便利さを打ち出してきたからであって、久留米はもっと便利だということ言うべき。福岡市にも近く、それであって背後には豊かな自然があるということで、鳥栖に負けていないと思う。通勤者の定住地として十分選んでもらえる魅力があると思うので、そこを強くアピールしていくこと。東京、大阪にも行くには便利ということを伝えていくと、無理しなくても働き場、経済創出が増えると思う。

○原口和人委員

今後の農業のポイントは農地の集約。例えば北海道の帯広は、農家1人の農地の平均が38ヘクタール。久留米は2ヘクタール。九州と北海道は土地の面積が違うし、北海道は消費地ではなく生産地である。九州も生産地になれるが、まだ効率が悪い。集約性が出てくれば若者の就職にもつながるので、土地の集約をもっとしてほしい。

また、新聞に載っていたが、福岡の大同青果が青果を船便で運ぶとのこと。航空便はコストが高く、外国に輸出する場合に割が合わないから結果的に商売としてあまり効率が良くない。これを船便で青果が保てるなら船便の方がはるかに安い。その特殊なやり方を大同青果が開発したということだ。

○高山美佳委員

6次産業化で特産品ばかりに目が向いているが、流通と保存の問題が一番の問題。久留米にはブリヂストンもあるので得意というか、ルートを持っている。

○空閑分科会長

技術を持っている会社と、それを必要としている会社がブリッジされていない。東北では、農業、漁業の分野で我々が想像している以上に進んでいる。私達がうまくカバーしていかないと立ち遅れてしまうのではないかと思う。

○石橋副分科会長

農業人口は増えているのか。農業総生産は330億円ぐらいで止まっていると思う。生産年齢人口はおそらく一番弱いところだと思う。

久留米市の人口動態の説明をしないと、久留米市から離れた議論になっている。

■事務局

自然動態は3年前から減少している。高齢社会で、亡くなる方を減らすというのは難しいので、出生数を増やすこと、少子化の歯止めが大きなところと考えている。転入、転出については、3年前まで約500名の転出超過の状況だったが、25年度は500名が転入増加になった。これから5年程度を想定すると、今のままでは、自然動態は5年ほどで3000名ほど減少する。25年度の年間約500名の転入増加を5、6年続けると3000人ぐらいの社会動態の増になるので、自然動態の減を社会動態の増で補うと、30万5000人を維持できるだろうという見込みで、30万5000人を目標として設定している。

大学入学の年代は人口が増えるが、卒業する年代は減り、年代ごとに少しずつ減っていく。25年度で増えたのは、子育て世代が若干戻ってきている。出生率の改善、生産年齢人口の増という視点から、子育て世代に力を入れていくのが大きな柱だと考えている。

総合計画では、まず人口の目標を立て、それぞれの取り組みの中に人口問題を反映させていくものと考えている。子育て支援や企業誘致など、定住人口の増、人口減少の改善という視点でそれぞれの施策の中に織り込んでいくことが重要だろうということで、ご意見を頂いている各論を実施していく中で、定住促進の意識をいれた取り組みを進めていきたいと思う。

○石橋副分科会長

産業構造でいくと、農業あるいは工業が人口の増加に貢献しているといった統計は出ているのか。個別的にはあるのだろうが、マクロから見たときにどうなのか。

■事務局

農業の従事者数は減少、かつ高齢化しており、その担い手をどうするかという中で大規模化等を進めている。人口は、マンション等の着工件数が増えてきており、まちなかとその周辺の校区が増えてきているが、その人達がどういった職業についているか分析まではしていない。

○石橋副分科会長

全体的にみると、久留米の農業は悪くはないが、人口は減っている。どうやって歯止めをかけるかが一番大切なことだと思う。

○原口和人委員

農地を集約化して、農業の法人化をすることだ。儲からないから若手は入らない、生活できないからしない、でも農業をやりたいと言っている若者は多くいる。そこにギャップがある。

○空閑分科会長

農業を産業としてどのように発展させるかというのが最大の問題である。大胆な施策を打ち出さないと農業振興も人口維持も無理では。もっと危機感を持って、先進的な取り組みをしているところを研究して、いろいろなアイデアがあった方が市民の協力や理解もえられる。また、効果も見えるようにする。

○山下永子委員

アグリビジネスの進行とか、いわゆる農業政策の延長上で農商工連携等と言われてもピンとこない。高山委員がおっしゃったように物流と農業の融合。農業を総合産業として、久留米が率先して今までにない形の物流、生産者、マーケティング、販売も含んだものを進めていくと PR したほうが良い。久留米らしい未来型の施策になるのではないかと思う。

○石橋副分科会長

やっていることはやっているが画期的なことができていない。国の政策も次から次へと変わる。国が主導権を握っているので、地方自治体独自の施策は難しいが、6次産業化など少しずつ取り組みは進んでおり、がんばって農業産出額を維持している。

○高山美佳委員

5農協がある特殊な体質で、合併直後は都城について一瞬だけ産出額は2位だった。それぐらいの生産高があつての微減だから、頑張っている。もっと売る部分ができれば生産人口が減っても生産高は上がる可能性がある。

後は学の部分。附設高校を始め素晴らしい高校を有しているまちということをもっと PR してもよいと思うが、あまり自慢しない。あれだけ凄い人を輩出しておきながら。

○山下永子委員

附設でいえば、間接的に応援してくれる人が全国に多くいる。青春時代を久留米で過ごした人達が久留米は農業生産地だとインプットしてくれれば、附設のネットワークは使えるかなと思う。

○石橋副分科会長

教養のレベルの高さは、久留米周辺も含めた中堅の工業高校にもあり、農業は別として工業関係は良好な労働力があると言われる。それでも大学に行く頃になると外に出て行く。それをどうするか。こうした特性を生かして、人口動態も考えられると良いと思う。

農業は担い手が課題である。

○高山美佳委員

若い方々を見ていると、一昔前みたいにそのまま家を継ぐのではなく、大学など一回外に出て U ターンしてくる人が増えている。一回出ることによって成長して帰ってくる。新卒採用は難しいと思うが、農業のほうはあるのではないかな。

○石橋副分科会長

住みややすさに関しては U ターンできる状況は多々ある。ただサラリーマンとかは大都会に一回でるとなかなか帰ってこない。その環境を整えなければならない。

○空閑分科会長

久留米は閉鎖的なイメージがあり、外から魅力が見えにくいですが、中に入ると、いいところがたくさんあると分かる。アピールするものがあるがなかなか打ち出せない。そこは PR だけではなく我々の気持ちもオープンに変えていかないといけない。

○高山美佳委員

久留米のほとめきの心はすごいですが、市域が広いのでいろいろ発信していかないと久留米のよさはわからない。それが長所であり短所でもあるところがある。植木産業の地でありながら市街地に緑が少ない。東京もあれだけ殺伐としたイメージがありながら街中は緑を増やしている。環境というキーワードも出てきていたので、市街地の緑化も施策の中に入れていくといいのではないかなと思う。

○山下永子委員

アクロス福岡は世界的に有名になってきている。田主丸の会社がメンテナンスしていて、今、世界で福岡といえばアクロスが全部イメージ写真として使われていて、ランドマークになっている。注目されており、田主丸の方がやっているのだから、久留米もそういった建物を作ればいいのではないかな

いか。シティプラザを森にできればよかった。

○高山美佳委員

シティプラザを緑化のシンボルイメージとして、背後の農村景観が市街地のにじんていくようなことができないか。街中に居住する人がもっと増えると思う。

○空閑分科会長

おもてなしの気持ちが市民一人ひとりにあるといい。外から来た人はよそにも行くから。これが良いということを皆でやっているほうが良いイメージアップにつながると思う。

○原口和人委員

久留米に泊まって観光するところがあればいいが、泊まる人はほとんどいない。こうした現実を踏まえた上でPRしていく必要がある。施策の力点のおき方を考えてほしい。

○秋永峰子委員

ポテンシャルという言葉がわかりにくい。潜在力と記載されているところもあるので、それでいいのではないか。潜在力を磨くとは底力のことであろうと思うが、具体的に書くべきだと思う。また、横のつながりはとても大切だと思うが、組織をみたときに、同じ目的の事業をそれぞれでやっていたりする。もっと柔軟な考えで対応できる組織づくりをしないと、無駄が多いと思う。

農業の話で法人化のことなどが出ていたが、自分の周辺をみると、やはり先祖代々の土地という意識があるのでなかなか変えられないと思う。そうであれば、土地を借りたがっている市民もいるので、誰かがコーディネートして休耕地を借りたい人に貸して農業をすることができればビジネスになると思う。街中に住んで農業もできるというアピールをやって定住化を図るとか。あるものを生かしてビジネスにしていくことをしてほしい。

○空閑分科会長

審議会への報告としては、原案のとおりでいいか。

→委員了承

### 3. その他

---

■事務局

次回は全体会議。7月中旬を予定している。後日日程調整する。

### 4. 閉会

---